

戦時下、精神病院での入院患者の死亡率が異様に高かったこと、
デング熱実験など精神病院での人体実験、
戦後直後に医師たちによって行われた空襲時精神病調査、空襲被害者、
沖縄戦による被害者、原爆被害者の今も続くPTSD、
戦場における兵士の精神疾患など、戦争が患者を追い詰めるだけでなく、
市民を精神障害に急激にあるいはゆっくりと追い込んでゆくさまを
歴史的事実を積み重ねながら立証する。

もうひとつの

戦場

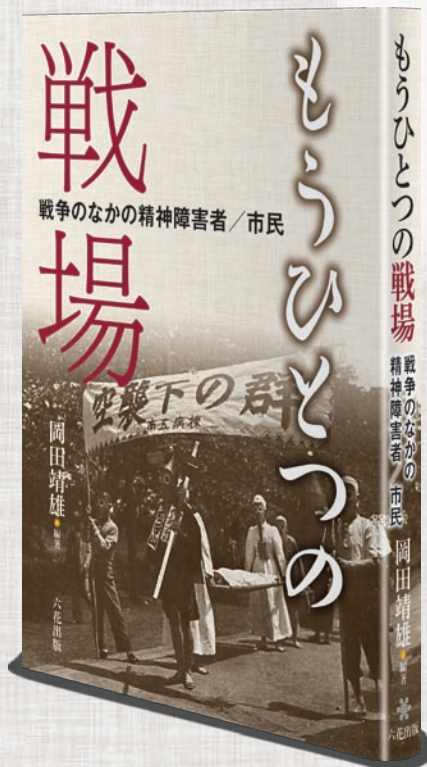
戦争のなかの
精神障害者／市民

岡田靖雄 ● 編著

2019年
7月刊行!

A5判／並製／228ページ／定価1,800円＋税
ISBN978-4-86617-080-0

アジア・太平洋戦争末期、南方戦線で
多くの兵士が疲弊し餓死していった時期、
東京など大都市では空爆が襲いかかり、
沖縄では地上戦となり、
広島・長崎では原子爆弾が投下され、
膨大な数の市民が死傷していった――
敗戦の年、精神病院で餓死した患者は、
入院患者の四〇パーセントにのぼった。
そこはもうひとつの戦場だった。



一九四四年、……病院では配給主食のなかに乾燥野菜やドングリ粉もいれられるようになった。患者に浮腫が目だちはじめ、死亡者が急増した。運動場ののこっていた部分も畑にし、それまで職員、患者が個人的に耕作していた部分を公用部分と個人割り当て分とに整理するが、この整理が大変だった。医員が患者をつれて井の頭公園へ木の根掘りにいくようになった。あつくなると死亡数はさらに増えた。火葬場では一体について薪一〇把、石油一升をもっていかないとくつけしてくれない。そこで院内の杉林に無許可で埋葬した(翌年までに三〇〇体ちかく)……

一九四五年四月一日には合州国軍が沖縄本島に上陸し、六月二三日には守備隊が全滅した。五月七日にはドイツ軍が連合国に対し無条件降伏した。八月六日広島に、八月九日長崎に原子爆弾が投下された。八月一日、天皇による戦争終結の詔書が放送された。九月八日合州国軍がジープで東京に進駐した。

病院では主食とともに調味料の欠乏でこまった(付録「大東亜雜記」に、塩の入手にもがいた様子がかかっている)。八月までに主食が七五分欠配になって、それがうちきられた。一月二〇日―二月五日の給食は、病棟内患者で二三九五カカリ、外部作業患者で二五七二カカリ、だいたい基礎代謝の熱量であった。もちろん、死亡数は激増。



序説

問題との出会い
第四三回日本精神神経学会総会
戦時中の松沢病院の状況概要

I 精神障害者の受難

第1章 入院患者の死亡率
立津政順論文
北島治雄さんの語り
各地の精神病院における戦争中入院患者死亡率
らい療養所ほかにおける死亡率

第2章 精神病院でのデング熱実験
『落書き帳』記事
デング熱
上野陽里論文
精神病患者へのデング熱接種実験
付、精神科における人体実験

II 空襲・戦闘のなかの市民

第1章 空襲時精神病——植松七九郎・塩入円祐の資料から
直接空襲にもとづく空襲時精神病
間接に空襲に関係あるもの
「戦争神経症」の定義

第2章 塩入円祐・岩佐金次郎による空襲生活調査
調査票と調査対象
考察(一) 調査結果について
考察(二) 後遺症はあったか

第3章 空襲の精神医学 野田正彰

空襲被害者の精神医学
第4章 沖縄戦による晩発性のPTSD 蟻塚亮一
沖縄戦によるストレス・トラウマ反応
事例の紹介
沖縄戦によるPTSDの発症の時期などについての考察

第5章 原子爆弾投下による精神障害者・市民の被害 中澤正夫
寥々たる精神科的研究
「被爆者の心の被害を追って」——筆者の見解

原爆の「こころ」の被害とは

III 戦争のなかの精神医学研究

第1章 戦場心理の研究——早尾庸雄による日中全面戦争従軍の記録
日中全面戦争のなかの早尾
戦場報告の内容
早尾庸雄さんの略歴
第2章 『精神神経学雑誌』における研究主題の変遷

IV 戦争の周辺で

第1章 大阪府立中宮病院と禁野火薬庫爆発
長山泰政という人
一九三九年三月一日
第2章 大阪脳神経病院事件
朝日新聞記事内容
官物横領のこと

付録

第1章 『大東亜雑誌』抄
第2章 占領下五月祭の原子爆弾症展
医学部入学ののち
準備、そして展示へ
その後のこと
この時代
死から目をそむけるな——あとがき



草野信男著
『原子爆弾症について』



1935年頃の松沢病院慢性病棟



持続浴
(1930年頃。松沢病院)

編著者紹介

岡田靖雄 一九三一年生まれ。現在青柿舎(精神科医療史資料室)主人
野田正彰 一九四四年生まれ。長浜赤十字病院精神科、関西学院大学教授などを歴任、著書に『喪の途上にて』など
蟻塚亮一 一九四七年生まれ。沖縄協同病院心療内科部長などを歴任、現在相馬市・メンタルクリニックなごみ所長。
著書に『沖縄戦と心の傷』など
中澤正夫 一九三七年生まれ。代々木病院精神科部長などを歴任、著書に『ヒバクシャの心の傷を追って』など

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。
お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話03(6266)8787

Fax 03(6266)8788 電子メール info@rikka-press.jp

発行 二六花出版 編著 岡田靖雄

注文カード

帖合・貴店名

〈八木書店経由〉

注文数

もうひとつの戦場
戦争と精神障害者／市民
定価●本体一、八〇〇円＋税
ISBN978-4-86617-080-0

お名前

お電話番号

注文 年 月 日